是々非々と大人の考え

浅海重夫

世の中には事実があり、物ごとにはすじと道理がある。事実をそのままみとめ、すじを是と判断することは、精神異常者でない限り可能なことである。たゞ、人には一般にそれぞれの立場がある。検事と弁護人は全く相反する立場をもった者で、この二つの立場の云い分を聞いて判決を下す裁判官は、特定の立場をもってはならない。議場における議長は、多くの立場からの意見をまとめる上に、どの立場にも無所属でなければならない。立場の相違はいわゆる見解の相違という面にあらわれ、裁判官や議長はこれを調整する役目を果たすわけだ。ところが、立場とは無関係であるべき事実または是の認識を、異なる立場に立つ者が故意に拒み合うために起る混乱が、不必要に裁判や議事の進行をさまたげる。自分と反する立場の人間が指摘する事実を、事実とみとめることをせず、是を是とうけ入れず、ひたすら自分の立場からひき出される結論のみを主張する偏狭さが、これらの例に限らず世の中に何と充満していることか。

しかし白紙の状態で是は是、非は非と認めていたら、その人の立場というものは確かに弱くなり、その人の主張する内容は根拠の薄いものとみられてしまうおそれをきたす。さりとて立場の主張に熱烈なあまり、すじを曲げ、規則を破り、非行をあえてして目標に突進するマキァヴェリズム的行為に荷担する子供の考えを、是認するのではない。せいぜい自己の立場上不利なことには、たとえそれが是であっても知らん顔をし、有利なことはこゝぞと声を大にして喧伝するのが得策だという大人の考えに同調してゆくことになりそうだ。

事実の上に立ち、合理的な判断をもって真理を探究する科学者といわれる中にも、その立場を固執して是々非々の態度をとり得ない人の多いのに驚く。学者、とくに自然科学者こそは、学問的立場、思想的立場のいかんを問わず、世の中で最も是々非々に徹しうる強い理性のもち主であるはずである。学者たるの第一条件は、頭脳明晰たることよりも是を是と認めることのできる合理精神の所有者たることだ。

もちろん各人の立場によって学問的見解が異なるのは当然だが、(その立場の違いも、視野・識見のせまさからくる場合が多いのであろう。)、ある学問的視野の下に研究をおこなうとき、その立場に合致せぬ事実を無駄な(不利な)

材料として捨て、都合のよい事実のみを集めて、自己の目ざした（意図した）結論に集結させようとする態度は、いかんながらしばしば見うけられ、またおちいりやすい傾向だ。

学問的情熱がはげしい場合に、がいしてこの傾向は一層強くなる。そうなってはいけないと警戒すれば、立場を失ったまとまりのない結論ばかり出がちになる。やはり次第に大人の考えに馴れて、適当にまとめ上げることになるのであろうか。

今日の政党政治の下では、政治家という職業は、立場からの主張を通すために、あらゆる事実を好都合な解釈によって有利に結論づける、いわば最も大人らしい大人の職業といえる。野球とテレビを見ている者は皆政府与党の支持者だという解釈などはその典型的なもので、政治家とはそういうものであって、理性ある者には是非の区別がつくからそれでよいかもしれない。しかしデモで死んだ犠牲者を、今となっては証拠もなく判断のしようがないのに、思想的立場の下に、警官隊に虐殺されたのだとするアピールがかゝげられ、それに署名する学者 —— しかも世界的に著名な科学者まで —— があるとは、どういうことであろうか。このさいこれを好材料に、自己の陣営の立場を有利に展開しうることだから（そしてその立場は正しく、目的は有意義なのだから）そうすることはよいことなのだと考えるのか。もしそうだとすると、同じ立場をもちながら、是々非々の見地から事実としてみとめ得ないことには同調できないとする態度をとる者は、非難されねばならないのか。

世の中に出て、多くの大人たちと交渉をもつようになると、はやく大人にならなければならないという。大人の考えになりきれない者は、いつまでも子供扱いされ、よく云えば純粋で、馬鹿にされたり損したりしている。大人になろうと思ったらご都合主義・迎合主義に徹して、疑問を抹殺し無駄になやまぬことで、世の普通の大人どもは皆その道を巧みに歩んでいる。大人になりきれない人たちは、是々非々に徹して立場をなくした場合に困却するような廻り道に迷い込んでいる。しかし世の中にはもう一種の、遠廻りで路面は悪いかもしれないが、永遠につゞく確乎たる道があるはずだ。立場の違う者とも是々非々の合理的判断の下に話し合い、真実を材料としつゝ利害を超越して、自己の目標に一歩ずつ近づく気長な努力をしつゞける道が。

（1961. 2. 10）